

特定非営利活動法人おてらおやつクラブ

2019年度 登録支援団体調査報告書 (概要版)



2019.12.9

おてらおやつクラブに登録している支援団体の活動実態と、
おてらおやつクラブやおすそわけを送付する寺院との関係性を把握する。



1

支援団体によって、受取るおすそわけの量・頻度はまちまちだが、9割強の団体がおすそわけに満足し、ほぼ全ての団体が今後も連携を希望。

2

8割強の団体は、おてらおやつクラブへの登録によって、心理的・経済的に状況が改善したと回答。また、7割弱の団体が、困ったときはおてらおやつクラブに助けを求められると感じている。

3

8割の団体が、寺院との関係性は良好と回答。
当活動でお寺に親しみを感じ、人とのつながりを実感する団体は9割にのぼる。

4

活動内容によって多少の差異はあるものの、支援団体の課題は、活動資金＞スタッフの人手＞家庭へのサポート＞情報発信という傾向。

全国のお寺の「おそなえ・おさがり・おすそわけ」が貧困問題解決のための活動となり得るのは、全国各地でそれぞれに志を持って活動されている団体さまとの協働があつてこそ。社会問題への関心を醸成し、地域でのたしかな見守りを作っていくために、まだまだ、たくさんのご縁を作っていく必要があります。

お寺がもつ歴史や空間、そして役割に対するさまざまな期待を実感するとともに、活動自体に多くの改善点、気づきを頂いた今回の調査でした。

お寺の「ある」と社会の「ない」をつなげることで社会問題が本当に解決するでしょうか？お釈迦さまの教えを自ら信じ、そして仏道を歩むお坊さんの姿が、現代社会においても仏縁を育み、それが結果として地域や社会の課題解決のための大きなリーダーシップを発揮すると信じ、実践していきます。

松島靖朗／おてらおやつクラブ代表理事・安養寺住職

食べ物を一度にたくさんとれない子どもにとって、おやつは「第四の食事」と言われます。初めて活動を知ったのはフードバンクの広報責任者を務めていた2014年。以来、講演や著書を通して、その存在意義を伝えてきました。

「ほとけさまのおさがりのおすそわけ」という姿勢に温かみを感じます。京都大学総長で霊長類学者の山極壽一先生によれば、人間は他人に食べ物を分け与えることに喜びを感じる動物だそうです。互酬性(もらったり返す気持ち)も人間独特とのこと。食べ物のおすそわけは特別なことではなく、人間本来に備わった自然な性質かもしれません。空腹ところを満たしてくれるおてらおやつクラブの活動、ますます広がりますように。

井出留美様／おてらおやつクラブ監事・食品ロス問題ジャーナリスト

おてらおやつクラブの強みとは、日本全国にお寺さんがあり、子どもたちやひとり親家庭の支援団体が近くのお寺とつながりながら、食の支援をしていることでしょう。

おやつなどの食べ物を届けながら、安心感も届けているのだということが調査からわかります。安心感はその人ひとりひとりの問題解決力や行動力をはぐくむ基盤です。

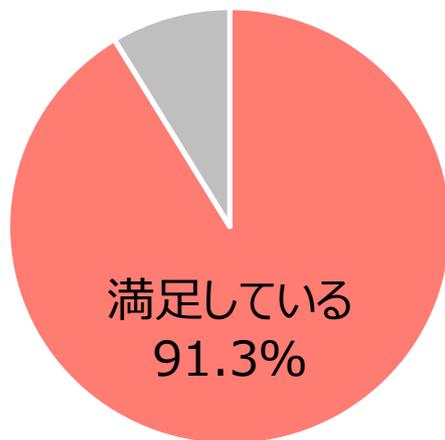
こまりごとがある方たちと、長い歴史を持ち全国にあるお寺という社会資源がつながってきたことはすばらしいと思います。

支援団体の課題もありますが、今後はさらに多面的な連携を模索できるといいですね。思うに、そもそものお寺さんの目的、人々の幸福を願い実現するということにかなったものなのかなあと僭越ながら思っています。

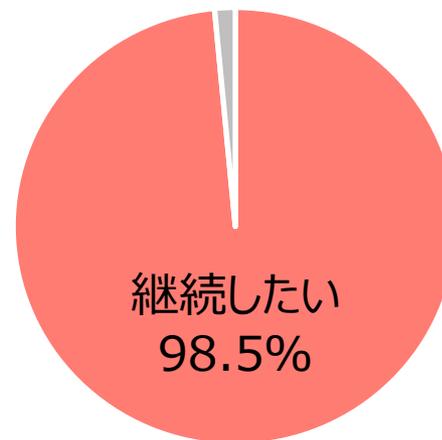
赤石千衣子様／NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ 理事長

支援団体によって、受取るおすそわけの量・頻度はまちまちだが、
9割強の団体がおすそわけに満足し、ほぼ全ての団体が今後も連携を希望。

Q. おすそわけの内容・量に対する満足度



Q. おてらおやつクラブ継続意向



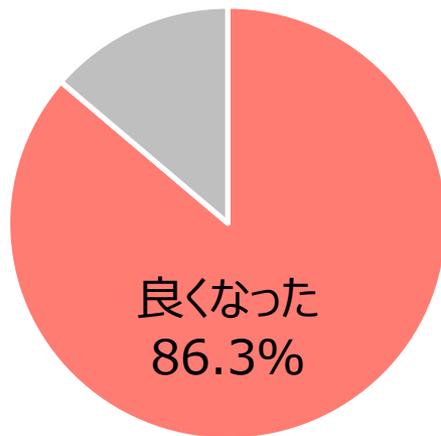
「団体を補助金で運営しておりますが、お菓子や飲み物は補助金対象外であるため非常に助かります。」(ひとり親家庭支援)

「おやつに手紙が添えられていたり、期限を記してくださる付箋が貼られていたり、気持ちがかもっていることを感じられてありがたく思っているから。」(居場所づくり支援)

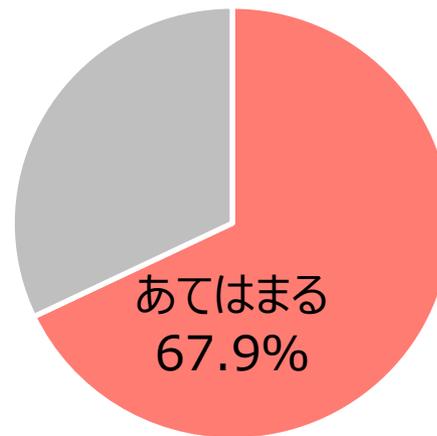
「時折賞味期限が過ぎたものや、期限間近なものが入っていることがあるので、提供する際に確認を徹底しております。」(自立・生活支援)

8割強の団体は、おてらおやつクラブへの登録によって、心理的・経済的に状況が改善したと回答。また、7割弱の団体が、困ったときはおてらおやつクラブに助けを求められると感じている。

Q. おてらおやつクラブ登録後の心理的・経済的状況の変化



Q. おてらおやつクラブ登録後のイメージ【困った時に助けを求められる】



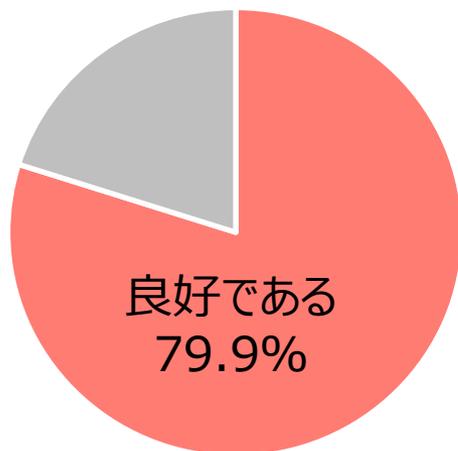
「市役所だけでなく、お寺様からも支援いただけているという認識が心理的に安心感につながっている。」(学習支援)

「経済的よりも心理的な喜びがもたらす影響が大きいと思います。直接送っていただく、お菓子など子どもが好きな物が届くという、目に見える形で支援いただいていることが一番大きいと思います。」(ひとり親家庭支援)

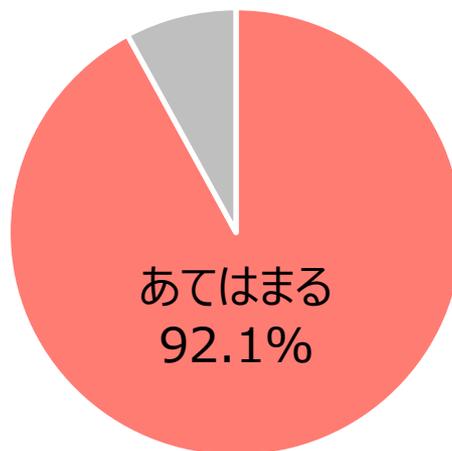
「複数寺院との送付状や手紙のやり取りで、温かい励ましを受け、孤軍奮闘せずになれる。経済的には助かっているが、子どもたちのニーズはより大きい。」(居場所づくり支援)

8割の団体が、寺院との関係性は良好と回答。
当活動でお寺に親しみを感じ、人とのつながりを実感する団体は9割にのぼる。

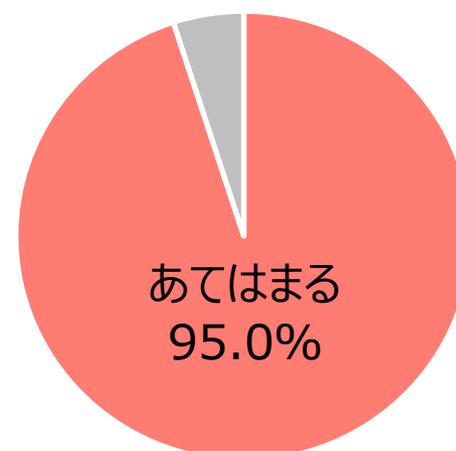
Q. 寺院との関係性



Q. おてらおやつクラブ登録後のイメージ
【お寺やお坊さんに親しみがわく】

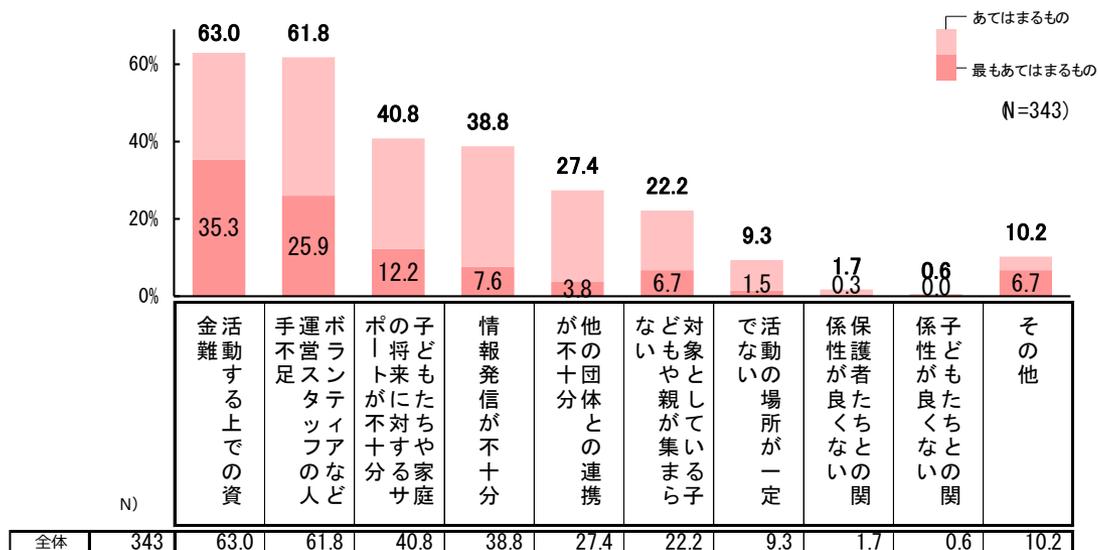


Q. おてらおやつクラブ登録後のイメージ
【人とのつながりを実感する】



活動内容によって多少の差異はあるものの、支援団体の課題は、
活動資金＞スタッフの人手＞家庭へのサポート＞情報発信という傾向。

Q. 支援団体の課題



【Q. 今後、おてらおやつクラブに望むこと】

「未永く活動を続けてほしいです。」(居場所づくり支援)

「つながりを作ることを一緒に考えてほしい。」(学習支援)

「お坊さんに現場を見に来てもらいたい。生徒のシェルター的な駆け込み寺になってもらえたら有難い。」(居場所づくり支援)

「地元の寺院関係とつながりたい。今の当方の地域では市外の寺院とのつながりはあるが地元にはない。」(子ども食堂)

調査目的	おてらおやつクラブに登録している支援団体について、団体の活動実態と、おてらおやつクラブやおすそわけを送付する寺院との関係性を把握し、今後の示唆とする。
調査手法	インターネット調査
調査対象	<ul style="list-style-type: none"> ・おてらおやつクラブに登録している453団体のうち、メールアドレスを有する444団体 ・団体の代表およびそれに準ずる方 <p>*メールアドレスのない9団体は、今回は調査対象外とした</p>
調査時期	2019年10月4日（金）～10月27日（日）
回答者謝礼	Amazonギフト券500円分
回答数（回答率）	343サンプル（77.3%）

名称	特定非営利活動法人おてらおやつクラブ
所在地	〒636-0311 奈良県磯城郡田原本町八尾40 安養寺内
活動開始	2014年1月1日
特定非営利活動法人 設立	2017年8月24日
ホームページ	https://otera-oyatsu.club
メールアドレス	mail@otera-oyatsu.club
FAX	050-3488-0963（電話での受付は現在行っておりません）
郵便振替口座	14590-25775631
代表者	代表理事 松島靖朗
役員	副理事 高山信雄 副理事 渡邊元浄 理事 野田芳樹 理事 福井良應 監事 井出留美 監事 桂 浄薫
相談役	森本公穰